

メールマガジンアーカイブ

2009/5/14 井上さん、ついに投資家になる！！(7)

メルマガアーカイブTOPに戻る

▣ リスクマネジメントラボラトリーのHPへ



すぐに見える！ Vol.20

忙しいドクターのための資産運用

～ 井上さん、ついに投資家になる！！(7)～

こんにちは、リスクマネジメント・ラボラトリー 代表の中澤です。

このシリーズでは積立投資についてRML社のスタッフの例を対談形式でお伝えしたいと思います。

36歳女性・RML社IT戦略室の井上が、将来の為に資産運用をどうすればよいか？（まったくの素人）相談を始めました。。。


[前回のコラム「井上さん、ついに投資家になる！！\(6\)」バックナンバーへリンク](#)

井上さんの投資の現状(2009年3月末)

	累計投資額	現在の評価額	評価損益	評価損益率
2008年6月末	2,100,000	1,853,005	-246,995	-11.76%
2008年9月末	2,400,000	1,789,743	-610,257	-25.42%
2008年12月末	2,700,000	1,699,959	-1,000,041	-37.04%
2009年3月末	3,000,000	1,986,308	-1,013,692	-33.79%

毎月の積立	1,000,000	2007年9月から毎月10万円。累計投資月数19ヶ月。
2008年2月	600,000	毎月積立している4種類のファンドを追加購入。
2008年4月	500,000	数年で解約する可能性もある資金なので海外債券ファンドを購入。

前回のコラムで上記の投資履歴で2008年2月を500,000円、2008年4月を600,000円としていましたが今回記載のものが正しい情報です。お詫びして訂正します。この誤記入によるコラムの主旨・内容への影響はありません。

- 後日 -

井上 まだマイナスですが最近のニュースを見ると少し明るさが出てきているようですね。

中澤 そうですね。3月初めは欧米での金融不安の高まりから3月10日には日経平均が7054.98とバブル崩壊後安値（終値）を更新しましたが、その後アメリカ大手金融機関の業績好転報道、米国不良資産買取計画の枠組み発表、また日本政府による追加の経済対策への期待から3月末の日経平均は8109.53と前月末比541.11円高で終わりました。

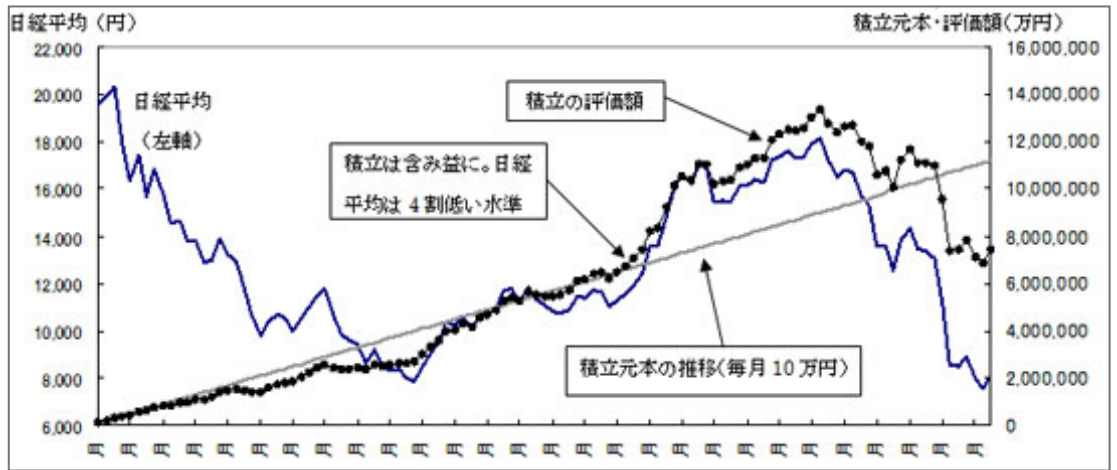
同様にMSCIコクサイという日本を除く先進国の株価指数も2月末の735.79から804.54と上昇しました。

井上 ちょうど桜の季節ということもあるかもしれませんが、世の中の雰囲気も少し明るくなってきたように感じますね。このままどんどん上がっていくんですか？

中澤 短期的な株価の予想はすることはできませんが、景気や雇用の問題、金融機関の不良債権の問題などまだまだ課題はありますからもう少し時間がかかるのではないのでしょうか。でも井上さんのように長い時間をかけて資産を育てたいと思っている人にとってはかえって都合の良いことかもしれ



ませんよ。



中澤 上図は日経平均を2000年のITバブルのピークの20,000円の時から毎月10万円づつ積立をした場合のシミュレーションです。

ITバブル崩壊から03年のイラク戦争に向け大きく値下がりする中でも地道に継続した積立投資は05年から含み益に転じます。

注目すべきことに日経平均は12,000円と開始時から4割も低いにも関わらず、06年に入り日経平均が16,000円になる頃には含み益は40%を超えてきます。

井上 なるほど。2002年から2003年にかけての時期に積立を継続していたのがその後の成果に結びついていることがよくわかりますね。ということは**今のように低迷している時期は『口数を増やすチャンスがきた』**と考えることができる**かもしれませんね**。でも、もしこれが本当だとしたら、何でみんなそんなに大騒ぎするんですか？

中澤 株価が下がることによる経済全体への影響はありますが、ちょっとそれは置いておいて、資産形成をするという観点から考えると**3つのポイント**があると思います。

第一は投資の理論です。

単に価格が上下するものをタイミングなどを上手に捉えることが資産運用だと思っている方にとっては大変なことです。

株式とは企業活動に必要な資金を供給することで、その成果を受取るものだ、ということが理解できているかどうかです。

その為には個々の企業を精査するか幅広く分散投資をするかをしていければ良いわけです。

井上 私は投資信託を利用して分散投資をしているからそんなに心配なくていいんですね。

中澤 **第二のポイントは時間**です。井上さんが現在投資をしている資金が来年必要だとしたらどうでしょう？

井上 早くもとに戻らないか、このまま損して取り崩さなければならぬのか、と**思っ**てドキドキする**かもしれません**。

中澤 債券であっても海外のものであれば為替の影響があるので5年ぐらい、株式であれば10年ぐらいの単位で考えておけばそんなに心配なくて済むでしょう。

第三のポイントは感情です。

投資の理論を理解し、今すぐに使わない資金で投資をしていたとしても自分の大切なお金が減るということとはつらいものです。株式の他に債券も組み合わせることで全体の値動きが小さくなります。

今回のような**クラッシュが起こった場合**にどの程度の値下がりなら許容できるかによって**株式と債券の配分を決めることが大切**です。

また感情をコントロールするためには井上さんが利用しているように**定期的に自分の意思や感情とは関係なく一定額を積立する**のも良い方法です。

井上 私のように長期的に積立によって資産形成をしたいと思っている人にとっては**今のような低迷期が続いた方が**良いということになりますね。

一方で早くプラスにならないかなあ、とも感じますし、なんか複雑な気持ちです。本当にお金と感情の関係は複雑ですね。



	20%	10%	50%	20%	100%	100%
	日本大型 株ファンド [※]	日本小型 株ファンド [※]	海外株 式ファンド [※]	アジア株式 ファンド [※]	ポートフォリオの 推移	国際分散 型バランス ファンド [※]
2007年9月	200,000	100,000	500,000	200,000	1,000,000	1,000,000
2007年12月	182,545	90,123	481,786	190,686	945,141	954,015
2008年3月	150,988	68,768	380,832	137,950	738,538	819,982
2008年6月	164,223	71,114	396,005	136,826	768,168	849,220
2008年9月	136,177	55,008	319,970	99,284	610,439	735,883
2008年12月	107,526	43,439	215,248	68,995	435,209	595,302
2009年3月	97,175	41,297	207,092	75,345	420,909	582,771

上記表は、2007年9月末に上記配分で100万円の投資を開始したとして、その後の基準月末の各ファンドの基準価額等および投資ポートフォリオの推移を表したもので当コラムを理解するための手助けを目的として作成をしています。月次の積立や追加の購入は反映していません。

【投資信託の手数料について】

- ・保有にかかわる信託報酬については控除後です。
- ・購入時手数料については考慮していません。
- ・分配金が出た場合は非課税で再投資をするものとします。

以上のような理由によりコラムの内容および実際の投資成果とは異なります。データについては信頼できるものを利用しておりますが正確性を保証するものではありません。


上記表は株式市場の変動やその推移が実際の商品や資産形成に与える影響を擬似的に体験するためのもので、この表をもって特定の商品を推奨するものではありません。また、採用している投資信託は元本を保証するものではありませんので解約時期によっては元本割れをする場合があります。このコラムは2009年4月10日に行われた面談をもとに書かれています。

上表は株式のみのポートフォリオを採用しているため、参考までに債券が含まれた国際分散型バランスファンドのデータも併記しています。

国際分散型バランスファンドの基本資産配分

- 日本大型株式：23%
- 日本小型株式：10%
- 米国株式：15%
- 欧州株式：13%
- アジア太平洋株式：4%
- 日本債券：17%
- 海外債券：18%

投資についての疑問、質問等はまずはお気軽にメールにてご相談ください。メールにて対応させていただきます。

 積立投資について、相談したい

是非、コンシェルジュにご相談ください！

▲ PAGE TOP

